

「既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル 2012 年版」正誤表

平成 24 年（2012 年）9 月 19 日に発行しました「既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル 2012 年版」に下記の正誤がありましたので掲載します。

(アンダーラインが修正箇所)

2025. 12. 15 訂正

下 巻	頁	位置	誤	正
	p. 331	上 L2	…表 <u>19</u> に第 2 種構造要素が…	…表 <u>15</u> に第 2 種構造要素が…

2017. 1. 30 訂正

上 巻	頁	位置	誤	正
	p. 155	上 L2	$\lambda = \frac{\sum_{j=1}^n \beta \cdot u_j \cdot W_j}{\sum_{j=1}^n W_j}$	$\lambda = \frac{\sum_{j=1}^n W_j}{\sum_{j=1}^n \beta \cdot u_j \cdot W_j}$

2017. 1. 18 訂正

上 巻	頁 p. 343	位置 上 L13	誤	
			$Mu3=(rag \cdot roy + sag \cdot soy + 0.5N \text{ } Fc' \cdot cA) \cdot Lw$	
			正	
			$Mu3=(rag \cdot roy + sag \cdot soy + 0.5N \text{ } \underline{+} \text{ } Fc' \cdot cA) \cdot Lw$	
下 巻	頁 p. 294	位置 上 L7	誤	正
			$\beta_{ct} = \sqrt{1 + \left(\frac{e_1 \cdot K_{su}}{\alpha_0 \cdot K_{to}} \right)^2}$	$\beta_{ct} = \frac{\underline{1}}{\sqrt{1 + \left(\frac{e_1 \cdot K_{su}}{\alpha_0 \cdot K_{to}} \right)^2}}$

2016. 3. 7 訂正

上 巻	頁	位置	誤	正
	p. 16	下 L8	…に図中の(2)式で…	…に図中の(1.4.2)式で…
	p. 23	下 L5	…前述の解(1.4-4)式に…	…前述の解(1.5-4)式に…
	p. 23	下 L2	…GIs は(1.4.4)式の…	…GIs は(1.5-4)式の…
	p. 24	下 L8	…ものがある。	…ものがある。 <u>なお、下記の表 4.1.1 から表 9 については、第 9 章の p. 272 から p. 313 を参照のこと。</u>
	p. 31	下 L6	…解表 1.6-2 には…	…解表 1.6-3 には…
	p. 39	上 L3	…第 6 章 (6.1.8 項など) および…	…第 6 章 (削除) および…
	p. 49	下 L19	…小さい場合で、JIS 規格外のコアの場合には…	…小さい場合 (削除) には…
	p. 57	下 L13	2.1-2 を参照として…	2.1-2 ~ <u>解図 2.1-8</u> を参照として…
	p. 197	下 L8	…「様式 2-1」に記載する。	…「様式 2-1」 <u>(9.1 節参照)</u> に記載する。
	p. 199	下 L1	…様式 5-1a の…	…様式 5-1 (削除) の…
	p. 204	下 L5	第 5 章に示す…	第 6 章 1 節に示す…
	p. 207	下 L1	…WPC 診断指針の(3.2.9)式による…	…WPC 診断指針の(3.2.8)式による…
	p. 208	上 L11	…いる(第 1 章 1 節 1 項(7)項解説)。	…いる(<u>WPC 造診断指針</u> 第 1 章 1 節 1 項(7)項解説)。
	p. 208	下 L13	…際しては、表 0 の…	…際しては、表 0 <u>c</u> の…
	p. 332	下 L20	5 階以下…	5 階 <u>建て</u> 以下…
	p. 332	下 L3	6 階以下…	6 階 <u>建て</u> 以下…
	p. 338	下 L4	脆性部材が…	脆性 <u>破壊</u> が…
	p. 363	上 L9	…最上階はとする。	…最上階は <u>その階高</u> とする。
	p. 378	上 L2	…軽くして <u>補強量</u> を…	…軽くして <u>耐震要素</u> を…
下 巻	p. 12	解表 6.1-1	一体打ち壁に対する <u>増打ち</u> 壁のせん断…	一体打ち壁に対する <u>増設</u> 壁のせん断…
	頁	位置	誤	
	p. 41	様式 7-4-2	$M_y(\text{圧}) = (0.5 \sigma_{BD} \cdot b \cdot D + a_{g3} \cdot \sigma_y) \ell_w \pm 0.5 (\sum N \cdot a_{g2} \cdot \sigma_y) \ell_w$ (6.1-11)	
			正	
			$M_y(\text{圧}) = (0.5 \sigma_{BD} \cdot b \cdot D + a_{g3} \cdot \sigma_y) \ell_w \pm 0.5 (\sum N \cdot a_{g2} \cdot \sigma_y) \ell_w$ (6.1-11)	
	頁	位置	誤	
	p. 165	上 L15	…近年、 <u>ii</u> の手法の適用範囲を…	…近年、 <u>b</u> の手法の適用範囲を…

2015. 9. 18 訂正

上 巻	頁	位置	誤
	p. 173	上 L2	$K_{EA} = \frac{\cos^2(\varphi - \theta - \theta_k)}{\cos \theta_k \cos^2 \theta \cos(\theta_k + \theta + \delta) \left\{ 1 + \sqrt{\frac{\sin(\varphi + \delta) \sin(\varphi - \alpha - \theta_k)}{\cos(\underline{\varphi} + \delta + \theta_k) \cos(\theta - \alpha)}} \right\}^2}$
			正
			$K_{EA} = \frac{\cos^2(\varphi - \theta - \theta_k)}{\cos \theta_k \cos^2 \theta \cos(\theta_k + \theta + \delta) \left\{ 1 + \sqrt{\frac{\sin(\varphi + \delta) \sin(\varphi - \alpha - \theta_k)}{\cos(\underline{\theta} + \delta + \theta_k) \cos(\theta - \alpha)}} \right\}^2}$

2013. 10. 1 訂正

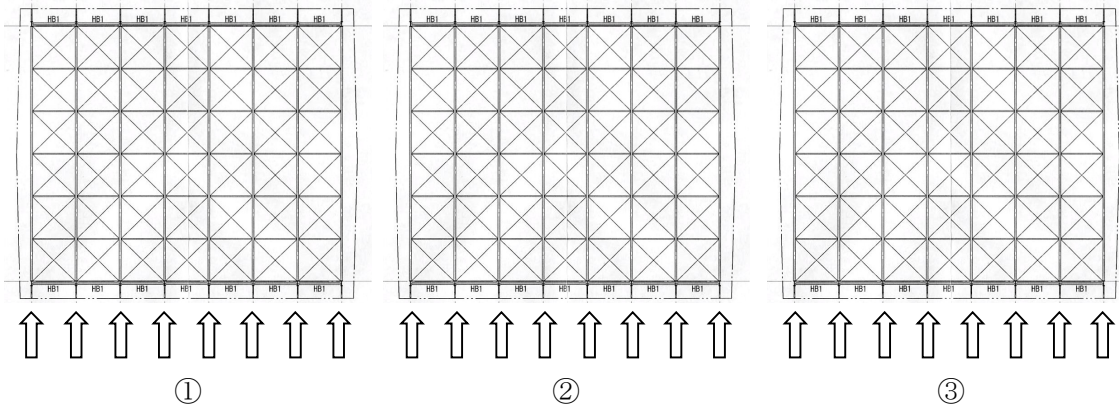
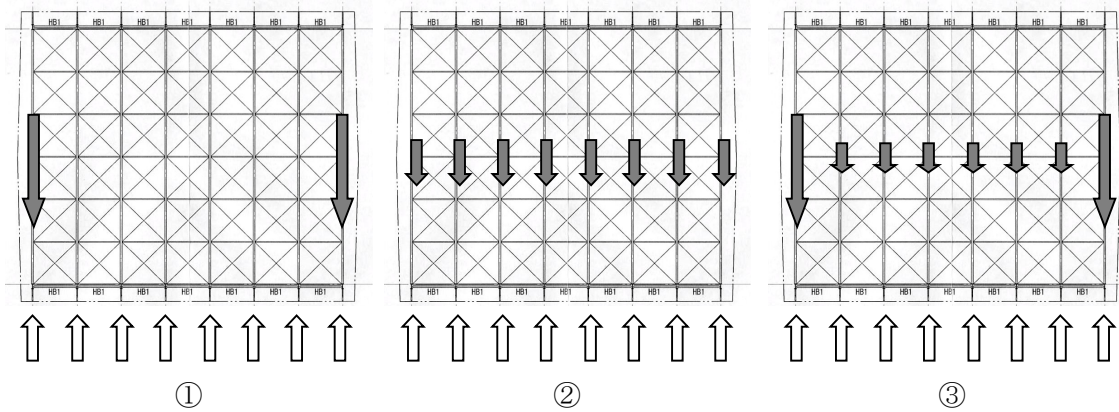
上 巻	頁	位置	誤	正
	p. 314	上 L7	${}_7N_u = 0.8 \cdot \gamma^{0.2} \cdot {}_6N_u$	${}_7N_u = 1.53/2.14 \cdot \gamma^{0.3} \cdot {}_6N_u$
下 巻	頁	位置	誤	
	p. 245	上 L18 ～21	<u>□既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル2003年版、(社)建築研究振興協</u> <u>会</u>	
			<u>□既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル 2003 年版－増補版 2007 年－、</u> <u>(社)建築研究振興協会</u>	
			正	
			<u>□既存建築物の耐震診断・耐震補強設計マニュアル 2012 年版、(一社)建築研究振興協会</u>	
	p. 255 p. 261	上 L28 ～31	<u>同上</u>	
	p. 321	上 L1 追記	<u>$p_{jw} = a_{jw} / (B \cdot s)$</u> <u>B：柱の短径</u> <u>s：せん断補強筋のピッチ</u>	

上
巻

頁	位置	誤	正																																						
p. 2	上 L2	(<u>第 5 章 2 節</u> および第 10 章 1 節)	(<u>第 1 章 7 節</u> および第 10 章 1 節)																																						
p. 2	下 L12	…マニュアル化(第 4 章 <u>2 節</u>)	…マニュアル化(第 4 章 <u>3 節</u>)																																						
p. 11	上 L13	(4) <u>階として</u> の扱い	(4) <u>複雑な壁</u> の扱い																																						
p. 21	下 L10	…の I_s は <u>θ が 15℃以下の場合</u> 、 $\cos^2 \theta$ を…	…の I_s は(<u>削除</u>)、 $\cos^2 \theta$ を…																																						
p. 25	上 L5	…後述する様式 2-3 「補強方針と…	…後述する様式 2-3 <u>b</u> 「補強方針と…																																						
p. 31	下表を追加	<div>解表 1.6-2 学校校舎の推定最大 $F(F_u)$ 値</div> <table><tr><th rowspan="3">ケース</th><th colspan="3">建設時期</th><th rowspan="3">I 期 ($p_w < 0.2\%$) 推定 F_u</th><th rowspan="3">II 期 ($0.2\% \leq p_w < 0.4\%$) 推定 F_u</th><th rowspan="3">II 期または III 期 ($0.4\% < p_w\%$) 推定 F_u</th><th rowspan="3">備考 接合部タイプ (スリット無)</th></tr><tr><th colspan="3">柱種別</th></tr><tr><th>CSS</th><th>CS</th><th>CB</th></tr><tr><td>A</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td><td>0.8</td><td>1.0</td><td>1.27</td><td>A-1,3 B-1,3</td></tr><tr><td>B</td><td>×</td><td>●</td><td>○</td><td>1.0</td><td>1.27</td><td>1.27～2.0</td><td>B-2</td></tr><tr><td>C</td><td>×</td><td>×</td><td>●</td><td>1.27</td><td>1.27以上</td><td>1.27以上</td><td>A-2</td></tr></table> <div>注) 記号 (×:無、○:有、●:第 2 種構造要素)</div>		ケース	建設時期			I 期 ($p_w < 0.2\%$) 推定 F_u	II 期 ($0.2\% \leq p_w < 0.4\%$) 推定 F_u	II 期または III 期 ($0.4\% < p_w\%$) 推定 F_u	備考 接合部タイプ (スリット無)	柱種別			CSS	CS	CB	A	●	○	○	0.8	1.0	1.27	A-1,3 B-1,3	B	×	●	○	1.0	1.27	1.27～2.0	B-2	C	×	×	●	1.27	1.27以上	1.27以上	A-2
ケース	建設時期				I 期 ($p_w < 0.2\%$) 推定 F_u	II 期 ($0.2\% \leq p_w < 0.4\%$) 推定 F_u	II 期または III 期 ($0.4\% < p_w\%$) 推定 F_u					備考 接合部タイプ (スリット無)																													
	柱種別																																								
	CSS	CS	CB																																						
A	●	○	○	0.8	1.0	1.27	A-1,3 B-1,3																																		
B	×	●	○	1.0	1.27	1.27～2.0	B-2																																		
C	×	×	●	1.27	1.27以上	1.27以上	A-2																																		

頁	位置	誤	正																																			
p. 32	上 L8	…書式を加えている。	…書式を加えている <u>(様式 15)</u> 。																																			
p. 40	下 L1	…外力分布とする。	…外力分布 <u>によるもの</u> とする。																																			
p. 42	上 L18	…解表 1.9-1 に加え <u>た</u> 解表…	…解表 1.9-1 に加え <u>て</u> 解表…																																			
p. 42	下 L3	…様式 <u>4</u> などの…	…様式 <u>5-1</u> などの…																																			
p. 43	表 1.9-1	<div>誤</div> <table><tr><td>様式16</td><td>非構造部材等の検討</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>様式18</td><td>その他の検討</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table> <div>正</div> <table><tr><td>様式16</td><td>その他の検討</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>様式17</td><td>非構造部材等の検討</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>様式18</td><td>議事録</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>		様式16	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○	様式18	その他の検討	—	○	○	○	○	様式16	その他の検討	—	○	○	○	○	様式17	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○	様式18	議事録	—	○	○	○	○
様式16	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○																																
様式18	その他の検討	—	○	○	○	○																																
様式16	その他の検討	—	○	○	○	○																																
様式17	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○																																
様式18	議事録	—	○	○	○	○																																

上 巻	頁	位置	誤	正
	p. 45	解図 2. 1-1	表右下 政策	対策
	p. 50	上 18	…よって <u>イオウを用いて</u> キャッピングを…	…よって <u>(削除)</u> キャッピングを…
	p. 52	上 18	一般的に、解式 (2.1- <u>2</u>) を用いて…	一般的に、解式 (2.1- <u>1</u>) を用いて…
	p. 58	下 L8	・各階最低 3 本コア抜く…	・各階最低 3 本 <u>の</u> コア <u>を</u> 抜く…
	p. 63	上 L14	…行っていく <u>場</u> 合には、…	…行っていく <u>場</u> 合には、…
	p. 67	下 L2	…場合に、 <u>パ</u> ネル部に…	…場合に、 <u>パ</u> ネル部に…
	p. 87	上 L1	…の有無、錆や <u>腐蝕</u> などの劣化状況。	…の有無、錆や <u>腐食</u> などの劣化状況。
	p. 87	上 L6	…の有無、錆や <u>腐蝕</u> などの劣化状況は…	…の有無、錆や <u>腐食</u> などの劣化状況は…
	p. 90	下 L2	…の設計を行 <u>う</u> 。	…の設計を行 <u>っても良い</u> 。
	p. 97	下 L5	<u>Y</u> : コンクリートの…	<u>γ</u> : コンクリートの…
	p. 97	下 L3	…の場合は、解式…	…の場合は、 <u>コア試験体のヤング係数が、</u> 解式…
	p. 100	解表 2. 6-3	補強接合部 (検討 <u>不要</u>) 接合部 (検討 <u>不要</u>)	補強接合部 (検討 <u>しなくても良い</u>) 接合部 (検討 <u>しなくても良い</u>)
	p. 105	下 L8	…測定誤差である <u>が</u> を特定できない場合…	…測定誤差である <u>こと</u> を特定できない場合…
	p. 106	下 L3	…が認めない場合、…	…が認め <u>られ</u> ない場合、…
	p. 132	下 L11	…第 1 章 <u>1 節 4 項</u> を参照する…	…第 1 章 <u>4 節</u> を参照する…
	p. 135	上 L3～ L4	<u>計算方法およびモデル化の詳細については本マニュアル付録 16 段形状の腰壁・そで壁が取り付け柱の耐力および靱性指標の評価を参照する。</u>	<u>(削除)</u>
	p. 191	上 10	…に <u>解表 9.2-1a、9.2-1b、9.2-1c</u> に示した…	…に <u>第 9 章 2 節の様式 0a、0c、0d</u> に示した…
	p. 191	下 3L	…診断方法は第 3 章 2 節 <u>6 項</u> に記す…	…診断方法は第 3 章 2 節 <u>7 項</u> に記す…
	p. 229	上 L7	… γ などの値を <u>様式 2</u> の…	… γ などの値を <u>第 9 章様式 2-2</u> の…

上 巻	p. 279	解図 4. 2-5	誤	
				
			正	
				
頁	位置	誤	正	
p. 293	上 L11	… <u>と</u> とともに、組み…	… <u>(削除)</u> とともに、組み…	
p. 293	上 L12	… <u>となるので、</u> 長期の…	… <u>(削除)</u> 長期の…	
頁	位置	誤	正	
p. 346	上 L5	$\sqrt{\sum \frac{h_i}{h} \cdot \frac{\ell_i}{\ell_{w0}}}$ が 0.4 <u>以下</u> の場合には、	$\sqrt{\sum \frac{h_i}{h} \cdot \frac{\ell_i}{\ell_{w0}}}$ が 0.4 <u>を超える</u> 場合には、	
p. 348	下 L12	…の値と <u>する。</u>	…の値と <u>し、更に 1.0<wQsu/wQmu<1.3 に対しても直線補間する。</u>	
p. 368	下 L14	…とみなすこととする。	…とみなすこととする <u>(3.0 を 1.5 とした)。</u>	
p. 369	表 3.1	(1) 診断基準「F 値」欄 11 階 <u>1.66</u> (1) 診断基準「F 値」欄 1～10 階 <u>2.50</u>	(1) 診断基準「F 値」欄 11 階 <u>1.39</u> (1) 診断基準「F 値」欄 1～10 階 <u>1.50</u>	
	下 L1	(欄外に右記を追加)	<u>ここでは壁の F 値は、せん断余裕度に応じて F=1.27～1.50 として算定した。</u>	

下
巻

頁	位置	誤		正						
p. 22	下 L14	…埋込み長さを有効 <u>8</u> da 以上…		…埋込み長さを有効 <u>7</u> da 以上…						
p. 144	上 L10	…補強付加耐力に対して <u>1.05%</u> 以上の…		…補強付加耐力に対して <u>5%</u> 以上の…						
p. 213	表 9. 1-1	誤								
		様式16	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○	○	
		様式18	その他の検討	—	○	○	○	○	○	
		正								
		様式16	その他の検討	—	○	○	○	○	○	
様式17	非構造部材等の検討	—	○	○	○	○	○			
様式18	議事録	—	○	○	○	○	○			
頁	位置	誤		正						
p. 217	上 L1	(様式 1)		(様式 <u>1-1</u>)						
p. 217	様式 1	誤								
		5. 設 計 年		年(昭和 年)		(期)				
		正								
		5. 設計年・竣工年		設計 年(昭和 年)・竣工 年(昭和 年)		(第 期)				
頁	位置	誤		正						
p. 218	上 L11 ～12	5. 竣工年：……………する。		5. <u>設計年・竣工年</u> ：……………する。 <u>設計年が不明の場合は竣工年から判断する。</u>						
p. 236	様式 0f	誤								
		鉄骨	d. 鉄骨大梁・RC 接合部、ルーズホールの有無		アンカー(), ルーズホール(有・無)					
			正							
		鉄骨	d. RC 柱・S 梁接合部、ルーズホールの有無、敷モルタルの状態		アンカー(), ルーズホール(有・無) 敷モルタル(厚さ mm、状況:)					
p. 238	様式 0g	誤								
		① 全般	f. X方向の梁の部材種別		○ 型鋼梁、その他()					
			正							
			① 全般	f. Y方向の梁の部材種別		○ 型鋼梁、その他()				
頁	位置	誤		正						
p. 240	上 L1	(様式 <u>2-2</u>)		(様式 <u>2-1</u>)						
p. 273	下 L3	…張間方向で a_w が $20\text{cm}^2/\text{m}^2$ <u>をが</u> 以下で…		…張間方向で a_w が $20\text{cm}^2/\text{m}^2$ <u>(削除)</u> 以下で…						

下 巻	頁	位置	誤	正																																		
	p. 277	表内 上 L3	…下式 <u>の表</u> により壁率を考慮した…	…下式 <u>(削除)</u> により壁率を考慮した…																																		
	p. 281	上 L3	p_g : 代表的な梁の全 <u>主筋</u> 比、 $p_g=(a_{gt}+a_{gs}+a_{gc})/(b_g \cdot D_g)$	p_g : 代表的な梁の全 <u>鋼材</u> 比、 $p_g=(a_{gt}+a_{gs}+a_{gc}+a_s)/(b_g \cdot D_g)$																																		
		上 L7	L7 下に追加	<u>a_s : 鉄骨フランジ換算断面積で 0.75×(フランジ断面 積)×sσ_y/σ_y(mm²)とする。ここで、sσ_y は鉄骨の計算 用材料強度。</u>																																		
		下 L10	<u>鉄骨フランジ換算断面積 a_s は 0.75×(フランジ断面 積) とする。</u>	<u>(削除)</u>																																		
		p. 293	下 L12 ～13	(充腹形) $N_{cu}=bc \cdot D_c \cdot \sigma_{BD}' + s a_g \cdot s$ <u>σ_yσ_{BD}'</u> : 圧縮側コンクリート部分の…	(充腹形) $N_{cu}=bc \cdot D_c \cdot \sigma_{BD}' + s a_g \cdot s$ <u>σ_y</u> σ _{BD} ' : 圧縮側コンクリート部分の…																																	
	p. 293	下 L3	$M_o=r_{at} \cdot r_{\sigma_y} \cdot D_c + s M_o$	$M_o=\underline{0.8} \cdot r_{at} \cdot r_{\sigma_y} \cdot D_c + s M_o$																																		
	p. 295	上 L9	誤																																			
			<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="2">R_{su1}</td><td colspan="2">cR_{su}</td></tr><tr><td>sM₀/M₀<0.3</td><td>sM₀/M₀≧0.3</td><td>sM₀/M₀<0.3</td><td><u>sM₀/M₀<0.3</u></td></tr><tr><td rowspan="2">非充腹</td><td>h₀/D_c>2</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td></tr><tr><td>h₀/D_c≦2</td><td>sR₅₀₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₅₀₀</td><td>sR₂₅₀</td></tr><tr><td rowspan="2">充腹</td><td>h₀/D_c>2</td><td colspan="2">sR₁₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>α n・sR_{su}≦cR_{max}</td></tr><tr><td>h₀/D_c≦2</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td></tr></table>						R _{su1}		cR _{su}		sM ₀ /M ₀ <0.3	sM ₀ /M ₀ ≧0.3	sM ₀ /M ₀ <0.3	<u>sM₀/M₀<0.3</u>	非充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	h ₀ /D _c ≦2	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₁₅₀		sR ₁₅₀	α n・sR _{su} ≦cR _{max}	h ₀ /D _c ≦2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀
					R _{su1}				cR _{su}																													
					sM ₀ /M ₀ <0.3	sM ₀ /M ₀ ≧0.3	sM ₀ /M ₀ <0.3	<u>sM₀/M₀<0.3</u>																														
			非充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀																														
				h ₀ /D _c ≦2	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀																														
			充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₁₅₀		sR ₁₅₀	α n・sR _{su} ≦cR _{max}																														
				h ₀ /D _c ≦2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀																														
			正																																			
			<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="2">R_{su1}</td><td colspan="2">cR_{su}</td></tr><tr><td>sM₀/M₀<0.3</td><td>sM₀/M₀≧0.3</td><td>sM₀/M₀<0.3</td><td><u>sM₀/M₀≧0.3</u></td></tr><tr><td rowspan="2">非充腹</td><td>h₀/D_c>2</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td></tr><tr><td>h₀/D_c≦2</td><td>sR₅₀₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₅₀₀</td><td>sR₂₅₀</td></tr><tr><td rowspan="2">充腹</td><td>h₀/D_c>2</td><td colspan="2">sR₁₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>α n・sR_{su}≦cR_{max}</td></tr><tr><td>h₀/D_c≦2</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td><td>sR₂₅₀</td><td>sR₁₅₀</td></tr></table>						R _{su1}		cR _{su}		sM ₀ /M ₀ <0.3	sM ₀ /M ₀ ≧0.3	sM ₀ /M ₀ <0.3	<u>sM₀/M₀≧0.3</u>	非充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	h ₀ /D _c ≦2	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₁₅₀		sR ₁₅₀	α n・sR _{su} ≦cR _{max}	h ₀ /D _c ≦2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀
		R _{su1}		cR _{su}																																		
		sM ₀ /M ₀ <0.3	sM ₀ /M ₀ ≧0.3	sM ₀ /M ₀ <0.3	<u>sM₀/M₀≧0.3</u>																																	
非充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀																																	
	h ₀ /D _c ≦2	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀	sR ₅₀₀	sR ₂₅₀																																	
充腹	h ₀ /D _c >2	sR ₁₅₀		sR ₁₅₀	α n・sR _{su} ≦cR _{max}																																	
	h ₀ /D _c ≦2	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀	sR ₂₅₀	sR ₁₅₀																																	
p. 298	下 L8	<u>(付録 5・2 参照)</u>	<u>(削除)</u>																																			
p. 298	下 L6	<u>(付録 5・2 参照)</u>	<u>(削除)</u>																																			
p. 299	下 L5	<u>(第 5 章 6 節参照)</u>	<u>(削除)</u>																																			
p. 303	下 L1	第 3 章 2 節 3 項を参照上記入する。	付録 16 を参照上記入する。																																			
p. 304	下 L1	第 3 章 2 節 3 項を参照上記入する。	付録 16 を参照上記入する。																																			

下 巻	頁	位置	誤																																																																																							
	p. 310	様式 7-4-2			加力方向		正加力(→)			負加力(←)																																																																																
					左右の位置		左		右		左		右																																																																													
			正																																																																																							
				左右の位置		左			右																																																																																	
				加力方向		正加力(→)		負加力(←)		正加力(→)		負加力(←)																																																																														
	p. 325	様式 11-1	誤																																																																																							
			<table><tr><td></td><td></td><td></td><td>$1.0 \leq u, l$</td><td>$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$</td><td>$0.0 \sim 1.0$</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>断</td><td>g</td><td>特殊形状(平面)</td><td></td><td></td><td></td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>面</td><td>h</td><td>地下室の有無</td><td>$1.0 \leq h$</td><td>$0.5 \leq h < 1.0$</td><td>$h < 0.5$</td><td></td><td>1.00</td><td></td><td></td><td>Fs 使用</td></tr><tr><td>形</td><td>i</td><td>層高の均等性</td><td>$0.8 \leq i$</td><td>$0.7 \leq i < 0.8$</td><td>$i < 0.7$</td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td>Fs 使用</td></tr><tr><td>状</td><td>j</td><td>ビ・ロティの有無</td><td>ビ・ロティ無し</td><td>全てビ・ロティ</td><td>ビ・ロティが偏在</td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>k</td><td>特殊形状(断面)</td><td></td><td></td><td></td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="11">$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$</td></tr></table>													$1.0 \leq u, l$	$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$	$0.0 \sim 1.0$							断	g	特殊形状(平面)				1.0	0.25	1.000		—	面	h	地下室の有無	$1.0 \leq h$	$0.5 \leq h < 1.0$	$h < 0.5$		1.00			Fs 使用	形	i	層高の均等性	$0.8 \leq i$	$0.7 \leq i < 0.8$	$i < 0.7$	1.0	0.25	1.000		Fs 使用	状	j	ビ・ロティの有無	ビ・ロティ無し	全てビ・ロティ	ビ・ロティが偏在	1.0	0.25	1.000		—		k	特殊形状(断面)				1.0	0.25	1.000			$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$										
						$1.0 \leq u, l$	$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$	$0.0 \sim 1.0$																																																																																		
			断	g	特殊形状(平面)				1.0	0.25	1.000		—																																																																													
面	h	地下室の有無	$1.0 \leq h$	$0.5 \leq h < 1.0$	$h < 0.5$		1.00			Fs 使用																																																																																
形	i	層高の均等性	$0.8 \leq i$	$0.7 \leq i < 0.8$	$i < 0.7$	1.0	0.25	1.000		Fs 使用																																																																																
状	j	ビ・ロティの有無	ビ・ロティ無し	全てビ・ロティ	ビ・ロティが偏在	1.0	0.25	1.000		—																																																																																
	k	特殊形状(断面)				1.0	0.25	1.000																																																																																		
$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$																																																																																										
正																																																																																										
<table><tr><td></td><td></td><td></td><td>$1.0 \leq u, l$</td><td>$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$</td><td>$0.0 \sim 1.0$</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>断</td><td>g</td><td>特殊形状(平面)</td><td></td><td></td><td></td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td>—</td></tr><tr><td>面</td><td>h</td><td>地下室の有無</td><td>$1.0 \leq h$</td><td>$0.5 \leq h < 1.0$</td><td>$h < 0.5$</td><td></td><td>1.00</td><td></td><td></td><td>Fs 使用</td></tr><tr><td>形</td><td>i</td><td>層高の均等性</td><td>$0.8 \leq i$</td><td>$0.7 \leq i < 0.8$</td><td>$i < 0.7$</td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td>Fs 使用</td></tr><tr><td>状</td><td>j</td><td>ビ・ロティの有無</td><td>ビ・ロティ無し</td><td>全てビ・ロティ</td><td>ビ・ロティが偏在</td><td>1.0</td><td>1.00</td><td>1.000</td><td></td><td>—</td></tr><tr><td></td><td>k</td><td>特殊形状(断面)</td><td></td><td></td><td></td><td>1.0</td><td>0.25</td><td>1.000</td><td></td><td></td></tr><tr><td colspan="11">$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$</td></tr></table>													$1.0 \leq u, l$	$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$	$0.0 \sim 1.0$							断	g	特殊形状(平面)				1.0	0.25	1.000		—	面	h	地下室の有無	$1.0 \leq h$	$0.5 \leq h < 1.0$	$h < 0.5$		1.00			Fs 使用	形	i	層高の均等性	$0.8 \leq i$	$0.7 \leq i < 0.8$	$i < 0.7$	1.0	0.25	1.000		Fs 使用	状	j	ビ・ロティの有無	ビ・ロティ無し	全てビ・ロティ	ビ・ロティが偏在	1.0	1.00	1.000		—		k	特殊形状(断面)				1.0	0.25	1.000			$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$													
			$1.0 \leq u, l$	$0.1 \sim 1.0 \leq u, l$	$0.0 \sim 1.0$																																																																																					
断	g	特殊形状(平面)				1.0	0.25	1.000		—																																																																																
面	h	地下室の有無	$1.0 \leq h$	$0.5 \leq h < 1.0$	$h < 0.5$		1.00			Fs 使用																																																																																
形	i	層高の均等性	$0.8 \leq i$	$0.7 \leq i < 0.8$	$i < 0.7$	1.0	0.25	1.000		Fs 使用																																																																																
状	j	ビ・ロティの有無	ビ・ロティ無し	全てビ・ロティ	ビ・ロティが偏在	1.0	1.00	1.000		—																																																																																
	k	特殊形状(断面)				1.0	0.25	1.000																																																																																		
$S_{a-a} = C_a, C_b, C_c, C_d, C_e, C_f, C_g, C_h, C_i, C_j, C_k$																																																																																										
	頁	位置	誤					正																																																																																		
	p. 333	下 L4	非構造部材等の検討					<u>その他の検討</u>																																																																																		
	p. 333	下 L3	(様式 16 の注意事項)					<u>(様式 16 の注意事項)</u>																																																																																		
	p. 333	下 L1	書式は……の検討を行う。					<u>書式は自由とし、必要に応じてスラブの面内力の検討や、杭の引き抜き抵抗力の計算を示す。</u> 非構造部材等の検討 (様式 17 の注意事項) 書式は……の検討を行う。 <u>(様式 18 の注意事項)</u> <u>当面は様式 29 のと同じものを使用する。ただし、補強設計の場合は様式 29 に替え、診断業務における耐震診断判定票および本委員会議事録を添付する。</u>																																																																																		
	p. 352	下 L4	…ケースが見られる <u>(参考資料：付 10. 4. 1)。</u>					…ケースが見られる <u>(削除)。</u>																																																																																		
付 録	頁	位置	誤					正																																																																																		
	付 9-11	図 9. 1	縦軸座標 応力 (<u>N/m</u>)					縦軸座標 応力 (<u>N/mm²</u>)																																																																																		